

# 科学技術リテラシー育成のための自律型対話プログラム

## ● 背景



図1 研究の背景

- 科学技術に関わる社会問題を考える話し合いの場の増加
  - 専門家・市民の双方に、コミュニケーション能力を含む科学技術リテラシーが求められる
  - 能力を身に付ける機会・場の不足
- ▼
- 大学教育の場で育成する試みを！
  - どうカリキュラム化する？コミュニケーション能力をどう評価・フィードバックする？などの問題

## ● 目標

- ① 第三者に頼ることなく、主体的に話し合いを進めていけるような自律的対話能力を育成するための教育プログラム『自律型対話プログラム』の開発
- ② ディスカッションを進める上でのコミュニケーション上の問題を具体的に指摘、改善するための『コミュニケーション・プロセスの評価指標』の開発

## ● プログラムの特徴

- 半期15回のモデルシラバス（図2）として提案
- ディスカッションを主体とするワークショップ型のプログラム（図3）
- 教員ガイドライン・TAマニュアル・ディスカッションチェックシート群などの必要教材をパッケージ化
- コミュニケーション・プロセスのモデル化から得られた評価指標（図4）を使い、自己評価・他者評価により気づきを促進

図2 モデルシラバススキーマ

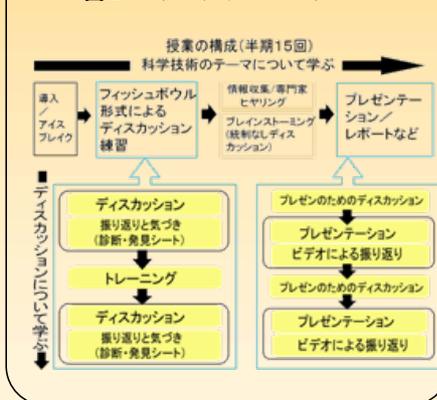


図3 ワークショップ型ディスカッション実践

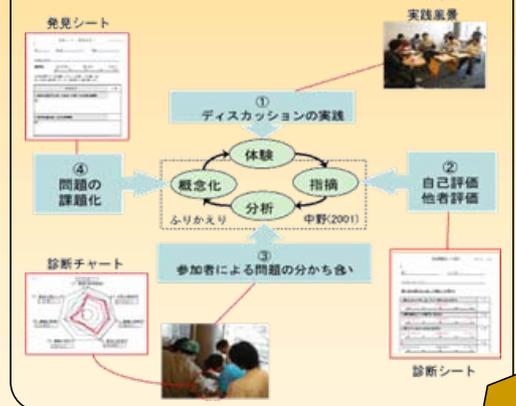


図4 診断シートの評価指標

評価指標	評価の観点
誠実な参加態度	自分の意見をしっかりと伝え、人の発言をしっかりと聞いたか
対等な関係性	全員が対等に議論に参加したか
議論の活発さ	議論は活発だったか
意見の多様さ	いろいろな意見が出ていたか
議論の深まり	一つ一つの意見が十分に検討されていたか
議論の管理	議論の流れがしっかりとコントロールされていたか
意見の積み上げ	結論に向かって一つ一つの意見が積み上げられていたか

## ● 授業実践中！

- プロジェクトメンバーの所属大学（3大学，4授業）において、モデルシラバスによる授業実践・効果検証中！

## ● プロジェクト参加研究機関

IBS・関西学院大・ATR・芝浦工大・愛媛大・大阪電通大・阪大

プログラムに関心のある大学教員の授業実践協力をお願いしています

詳しくは <http://lssl.jp/> をご覧下さい  
その他、問い合わせは [info@lssl.jp](mailto:info@lssl.jp) までメールください